

被災地・奥能登で自動草刈りロボット実証実験を実施

加速する過疎化と労働力不足に対し「草刈りの省人化・自動化」を検証
道路脇・休耕地の維持管理を支える次世代インフラモデル「SATOYAMA GRID」実装フェーズへ



ラジコン式草刈機 AllyNav 社製 Taurus80E

一般社団法人 現代集落（石川県珠洲市）は、2026年5月20日（水）、珠洲市内「現代集落」周辺道路および法面・休耕地にて、ラジコン式草刈機を活用した草刈り作業の省人化・自動化に向けた初回実証実験を実施します。

能登半島地震後の復興プロセスにおいて、過疎化が加速した地域では、道路脇や休耕地の維持管理が大きな課題となっています。特に、人手に依存してきた草刈り作業は、高齢化や担い手不足により持続が困難になっており、省人化・自動化を前提とした新たな地域維持モデルが求められています。

本実証では、ラジコン式草刈機の有用性を検証し、過疎地域における草刈り作業の省力化ソリューション開発と、将来的な自治体連携による地域導入モデルの構築を目指します。

これは、現代集落が進める過疎地域再生モデル「SATOYAMA GRID」の一環として、被災地・過疎地の生活インフラ再構築に挑む取り組みです。

実施概要

- 日時：2026年5月20日（水）
 - 10:30～12:00 道路脇の除草走行
 - 13:00～14:30 休耕地の除草走行
- ※雨天時は別途協議のうえ延期判断

- 実施場所：石川県珠洲市内「現代集落」周辺道路および法面・休耕地
(〒927-1446 石川県珠洲市真浦町ル 12-4 周辺)
 - 内容：ラジコン式草刈機による現地実証実験
 - 使用機体：AllyNav 社製 Taurus80E
-

実証の目的

- 道路脇や休耕地の雑草維持管理において、ラジコン式草刈機の導入による省人化・自動化の可能性を検証し、過疎地域に適した持続可能な地域管理手法を探ります。



主な検証項目

1. 実用性・効果検証
 - 周辺道路、法面、休耕地における走行性能
 - 草刈り精度
 - 作業時間短縮効果
 - ラジコン操作および教示走行（ルートマッピング）の運用性確認
 2. 技術連携検証
 - 高精度 GNSS 位置情報サービスを活用した位置測位精度の確認
 - 将来的な自動走行実装に向けた技術課題抽出
 3. 安全性検証
 - 機体操作
 - 保管方法
 - 現地オペレーション時の安全管理確認
-

想定する将来展開

本実証を通じて、過疎地域における草刈り作業の省人化・自動化ソリューションを開発・検討し、自治体や地域と連携した持続可能なビジネス展開を目指します。

取材の見どころ

- 能登半島地震後、復興と並行して進む過疎化のリアル
- 道路脇・法面・休耕地という生活インフラ維持の現場課題
- ラジコン式草刈機による省人化・自動化の可能性
- 被災地を起点に進む「SATOYAMA GRID」実装フェーズ
- 地域課題を“現場から解く”自治体連携モデルの可能性



一般社団法人現代集落 代表理事 林俊伍（ハヤシ シュンゴ）

金沢市出身。豊田通商、高校教員を経て、地域再生への思いから2016年に株式会社こみんぐるを創業。2020年より珠洲市真浦町に拠点を移し、金沢との二拠点生活をしながら、能登で「現代集落」および過疎地域再生モデル「SATOYAMA GRID」を推進。

震災後の奥能登だからこそ、地域課題を未来につながる仕組みに変えたい。草刈りという身近な課題から、持続可能な集落再構築の実装を進めます。

報道関係・取材に関するお問い合わせ：

一般社団法人 現代集落 担当：中村

E-mail：cominglepr@gmail.com

TEL:076-205-8092

（対応時間 15:00～18:00／旅音の旅猫につながります。

可能な限りメールにてご連絡ください。）

